



日蓮聖人

日蓮聖人(ひのきむくせん)【一八三七~一九一〇】曹洞宗。伯耆國現在の鳥取県の生まれ。早は雑室。十五歳で笑聲默然について出家、天律院寺営業、永興庵福仙に参じて後、黙中の法師となる。末派純代議員、特選議員に選ばれ、宗政に關係、中國、朝鮮など各地を漫遊した。總持寺西堂から永寧寺の貫首になり、日泰寺、誕生寺、廣業寺など多くの寺を開創した。勅許は「印鑑道場御師」。

光秀や良薦さん
に大變ゆかりの
ある寺です。
さてあの口、
山本氏といふ妻
商が田舎寺にや
ってきて黙仙和尚の法話を尋ね
しました。

法話を終わつて別席でのお茶の席で、山本氏の妻がケチでは



「あれじゃね、もう少し突然和尚がご存うむしを曰本氏の妻の頭の前
に姿勢をよせました。
もを賣うりただけが生きが
いたた女性なので、今
の夫の世界についてゆけ
ないだつたのです。
『それはなかなか大変だ
ぞ』と黙仙和尚は小さい
声でうながきました。
ある日、黙仙和尚は山
本氏の屋敷へ便向に招か
れました。和向に精進料理を出しました。いつても
多少はめたかも知れま
せんが、明治の初め頃に
はまだ信仰心が厚むった
ようだ。超ケチで有名な
妻も、少しはましめな修理
を用意して座敷に出てあ
るといふ氣を使って接
待したのです。
いろいろな世間話をしな

機鋒

TOUGEN NEWS

7月1日(木)

史行所 桃源院
史行責任 丹野田中高文
編集部 村上明宏 田中高文
桃源院アドレス tougen@asone.or.jp



本來れの夫山以そ
婦の夫山以そ

す。車の運転でも、センターラインにも寄りやすいな。今まで路側帯にも寄りやすいな。またその花を彼女に譲ります。まだ知らない相手の母親に向じたが、途端に決する動画を見現したのでしよう。
（泣き声）……………

彼女は「嬉しくね」と言います。やがてすると、彼女の喜びは、彼の胸から緩慢に溢けてくるのです。まことに、彼女の花が彼の胸から緩慢に溢けてくるのです。



お坊さんが托鉢の時、商店や民家の前に立ち布施を受けるのは、ただ我が命の命をつなぐためのお米や布施を頂くだけではないのです。衆



その後、寺院が本堂を葬儀式場に解放したり、境内の中に斎場を建てて、近隣の住民の葬儀に便宜をはかつたりするようになります。

の敷地内にも葬儀式場が建設されましたが、この辺では多くの葬儀社が争うところには、自社の葬儀式場を持つようになってきています。

最近はコロナ禍の影響で会葬者は少なくなってきていましたが、たまに会葬者が多い日は、以前はたくさんあつたものです。

しかし葬儀の場所が

古い場所の正面から儀式を行なうのは、狭く、遺影と並んでして、ごく近いです。飾られた棺桶に生花も限られた範囲しか見えないので、

葬儀の最中にその視

界によく虫が現れます。ハエだったらチヨウだつたり小さなアブだつたり、小さなアブ季節にいないはずの虫が飛ぶこともあります。雲が黒い飛っています。かたかたかたかたせんが、あまらにその機会が多いので、私は絶対に蟲が虫になつて、ここに困つて生きているのなきうと想ひるようになりました。そして、虫になつて私の読書院で執り行われました。

七
き妻



二十九年間、苦労を共にした妻が逝ったのは、一年前の冬月十五日です。暖かい冬の夜も、この日は、底冷えのする寒さで、呂を掃除していた妻は、やや風邪気味のようでした。朝は熱もなく、気にはいつもの家事のスケジュールをこなしていました。当然私は私を殺すこともなく、いつものように出勤しました。ところが、私がいつのように九時頃帰つて来ると、家の前に赤いランプが点滅する数秒、急車が駐まつていた

「亡き妻の化身」
大久保英雄

その光景を、隣家の住人や次女が居る道のアーチのところに居て、心配そうに見つめていた。私もまた、何が何だか分からず、心配そうにならぬ氣持で、何を解いてやることも出来ないものとしかを感じながら、ただ見つめながらでした。

私は心配することもなく、いつものように出勤しました。ところが、私がいつものように残業をして夜の九時頃帰つて来ると、家の前に赤いランプが点滅する。救急車が駐まっていた

この時、すでに妻は、こと切れていたのでした。救急車は市立病院へ向かいました。でも、この時は、私も、隣家の人は、次女も妻が死んでも、次女も妻が死んだと気がついていませんでした。

め、裏は、五十六才になつたばかりの人生を、あつまつたもので終つてしまつたのです。私は何ともいえないので、空しさの中で生き残る希望さえ失いかけていました。

そんなふうだったので、半年が経つたのであります。ましてコロナ禍で、今まで生きて来られたものだと想いましら、ボーツとして過ごしてきました。

少し蒸し暑さがつた翌年六月三日、雨天も玄関のガラス戸もみんな閉じてゐるのに、夜十時過ぎにふと、に入ろうとする人と、出巣の花に白い蝶があつた。私はがそばに行くと、蝶はひらひらと無いのがり、私が手を出すと私の手の中にありました。しばらく見ていました。すると蝶はまたひらひらと舞つて、また出巣のあじさいの花にとどまるのです。

「へ」んなに夜遅いのに?

私はその時「政子
妻の物語」か? 〔本編〕

いの花にとまる。
そのあじさいの花

で休んでいた夢でした。私が妻の体を抱き、『うう』

つても……
でも、どう考えた
つて云ふべきがあ

ちを聞いてはしかつたのです

私は不思議な気が
になって、またそば
に行くと、蝶は、今
度はふとんの上に舞
い降りました。私の

「要の名が？」本気でそう思いました。そんな馬鹿な事があるはずはないのに、そんな気がして、い

妻が度々相談なもので、近くのホームセンターから買ってきて、大切に育ってきたものです。

「ああよ
きおこし
かった、生きてい
て」という、そんな
夢でばかりでした
が、きのうの夢はい

てそんなことがあ
るはずがないといく
ら思つても・・・
では何故?どうし
て部屋にいないの

話を聞いた長女は、「お母さんが蝶になつて会いに来たんだよ、お父さんのことを、心配して、

半年が経つたのであります。ましてコロナ禍のなかで、よくなれたまま生きて来られたものです。まだと思いまして。決してオーバーではなくそういう思いながら漠然と社会の動きに身を任せながら、ボーッとして過ごしてきたのです。

10

A close-up photograph of a white butterfly with yellow markings on its wings, resting on a cluster of small, blue flowers.

花を咲かせるようになります。夕方に切つて仏壇に飾った残りの花でした。蝶は花にとまり、舞上り、そしてまた花にとまります。

妻は白い蝶になつて、あじさいの花を見がつてら、花を会いに来たのだろうか？ そうだ、きっとそうに違ひない。私はふとんにもぐり込み、あじさいにとまり、そして舞上がる。その繰り返しの白い蝶を何とも不思議な気持

こんな事が、妙に私の心にひつかかるのです。
やはり、あの蝶はきっと政子の化身だつたに違ひない。たしかにそうだ。
このようになつても、淋しくても、元気を出して生きていこうとして

次女も「お母さん
だよ、それは、お母
さんの靈が蝶になつて、
とんできましたんだ
よ。私も信じるわ」
娘一人は笑わずに
電話でそう言つてくれ
ました。

掛け布団は妻が使つ
ていた、花柄の布団
だったのです。

私はその前の方、妻の夢を見ました。それが何と、庭に咲いた花を辛うじて庭の仮壇に供えた花でした。

で見つめていました。そのうちに常夜灯をつけたまま、眠りつてしまつたようです。

朝、目をさますと、私はすぐにある白い蝶をさがしました。しかしあの蝶は部屋のどこにもいなかつたのです。窓はみんな閉められており、どこへも出られないはずなのに、蝶は、どこから逃げたのだろうか?

いる私に会いに来てくれたのだ。そんな馬鹿なことが、と思ひながらも、でも私はそう思う。とにかくのうす。そうするとまたいい。つかあの白い蝶が、そのそはんできてくるという期待感の中で脚をむるのである。他人に言えば笑はれる。他人に笑はれる、妻を立てて、気が違つたと罵られるに違つない。だからこんな事は他だらん。

暑い水曜日の夜の出
事でした。私の
心の中に、いつまでも
忘れない。本当に
当のことです。他人に
言はれてもいい。
娘たちが同じじ
くれたこの白い蝶
を、私はいつまでも
私に会いに来て忘れ
たくないと思いま
す。





遺偈

耕雲種月
九十五年

末期一句 光徹大千

十六歳で父を亡くして、それから八年間お寺を守つてくれました。

書き経などの準備をしていました。

き生涯を終えました。

尚、本弊の儀は左記の日程を予定しておなります。

十二月二日
(本通夜)

合掌

ありえぬ事態へと
れる。

八十年間 謹み続いた 桃源院

自分の父を「くじら」の、16歳の娘から叔父で、の角田市の大泉寺で、小僧生活を始め、桃源院に帰ってきてからも戦争中、瞬間でしながら、朝から晩まで裏山の烟を新し葬式や法事をしなじ続けて戦後も、その習慣が一生続き、それが下手だったのが、かしまれません。

そろそろお彼岸だ
とか次はお盆だと
か、いそいそ始業式

境内に目をやれば、そこに立つてはいとしそうに新築の本堂を眺めていた姿が忘れられません。

また、孫が本山總持寺に修行に入るとき、参道の木の陰に隠れて、姿が見えなくなる後で、もぞりとうるお姿を目を追っていた様子も忘れられません。

これからのお寺の生活の合間に、ふとあの長年聞き慣れた声が聞こえてきそう気がします。

引退して東堂とな
つても「葬式の時間
に間にあうのか」
「塔婆は持ったか」
と心配ばかりしてい
ました。高齢になっ
ても相変わらずじつ
としていることを好
みませんでした。

A man in a white lab coat stands at a counter in a laboratory setting, holding a green cup. A yellow gas cylinder with a hose is on a nearby stand. In the background, there are shelves with boxes labeled 'KURETAI'.

大般若祈禱会

つて仏さまに今年一年
の世界平和・新型コロ
ナの早期終息・五穀豊
穫・海難安寧・などを
祈願する共に、檀信
徒のみなさまの無病息
災・病気平癒・交通安全
全・合格祈願などの願
い事を祈念する「祈
法要」です。

太鼓の音が
響き渡る中、
僧侶たちは十
二個の箱から
折りたたまれ
た経本を取り
出し、それぞ
れ扇のようにな
ら讀んで、それぞ
れ扇を繰り返し

今年も三月二十一日
昨年同様に、感染防止
策として、本堂には各
地区的檀信徒の皆様を



『大般若經』

と云ふ、正式には「摩
訶般若波羅蜜多經」と
いいます。千三百年以
前、『西遊記』でも

有名な中國（唐）の
三藏法師玄奘が、十六
年間の旅でインド（天
竺）から持ち帰つたも
のを、最晩年になつて
から四年以下の年月を
かけて配下の訳経僧た
ちとともに翻訳（漢

訳）した、あらゆる仏
教典の中でも最大規模を
誇る經典です。

字數は約五百万字、
全部で六百巻になり
ます。お祈りさまの説
かれた教えの集成で
ある「大般若經」六百
巻を読み上げる代わ
りに、集まつた僧たち
が声高らかに經題を読
み上げ、経文を大きく
開く作法で空中に開き
転読し、その功德をも



別院 新入紹介



関根直子

趣味

花いじり
娘二人の子育てに
夢中です
旅行が好きです



黒澤直明

趣味

ゴルフ お酒

小林江美子



趣味
昔、「バンド
エイト」という
バンドやボーカ
ルを担当
名水百選巡り
子供と動物が好
き。



靈供膳

毎日欠かさず供えられます。